

〇氏の思い

「大人になれなかった弟たちに……」を覚えていますか。一年の国語の教科書に載っている物語です。作者は米倉齊加年氏。この作品は一九八三年に絵本として出版されました。どうして絵本なのかわかりますか。それは幼い子も含めたこれからの若者に読んでもらいたいからです。それでは、どうして若者に読んでもらいたいのかわかりますか。

答えは、この絵本のあとがきに書かれています。

「戦争ではたくさんの人たちが死にます。(中略)そのことを私たちは忘れてはならないと思います。そのことを忘れて 私たちの平和は守られないでしょう。」

つまり、戦争を繰り返してはいけない、平和を守りたい、そのことを米倉氏は若者に伝えたかったのです。自分が生きているうちに書き残して、若者に戦争の悲惨さを伝えたかったのです。彼はこの作品を残して、二〇一四年八月にこの世を去りました。

十二月十二日に「中学生と語る会」が計画されています。コロナ禍ということもありますので、今年度は趣を変えて、「ホテルを学ぶ会」として実施されます。

それに参加する意思のある北中生を募ったところ、予想された人数を大きく下回っていることがわかりました。ボランティアですの
で強制するつもりはありませんが、次のようなことを知った上で、もう一度考えてみてはいかがでしょう。

蛍を増やそうと長年頑張って取り組んでみえる講師の〇さんは明世町にお住いの方です。七十歳をとうに過ぎています。お元気そうに見えますが、最近大きな手術をされ、しばらくの入院の後、復活されました。本来ならば、ゆっくり休むべきところだと思いが、北中が誕生したことで、彼は何かかして、多くの中学生に蛍のことを知ってもらいたいと考えていらっしやいます。

二十年前に旧瑞陵中学校に勤めていた時、同僚と共に、校区の月吉に蛍を見に行ったことがあります。車のヘッドライトを消してハイライトを点滅させると、多くの蛍が集まってきて幻想的だったことを覚えています。私が住んでいる釜戸町にも多くの蛍が飛び交っていました。私は我が子たちを連れて、よく見に行きました。

現在はどうかでしょうか。多くの蛍が飛び交う光景が見られますか。音を知らない皆さんには比較ができないでしょうが、私の知る範囲では、ほとんどその数は減ってますよ。このままていくと、皆さんが親になるころには……。

〇氏は「そんな現実を何とかしたい」「若者に知ってほしい」と思ってみえます。昨日訪れた「あゆパーク」のスタッフも地元の若者ばかりでした。若者が行動に移さないと、これからはいろんなものを守っていけない時代になります。主力は若者です。若い世代が力を握っていると言えますね。

(十一月三十日 記)